

第27回 MQI活動

2022年度MQI統一主題
価値観の転換-守るものと、変えるもの-

継続フォローの会・3年目フォローの会

理事長・院長MQI推進委員会委員長 柳川 達生

みみより
MQI



発行（公財）練馬総合病院MQI推進委員会
〒176-8530 練馬区旭丘1-24-1
TEL03-5988-2200（代）



MQIで構築した新たな業務の仕組みを継続させる必要があります。そのためには歯止め・標準化が重要です。そのためには適切な部署に業務として引き継ぐ必要があります。業務を引き継いでも、うまく機能せず立ち消えになってしまうことがあります。継続できなかった理由として、改善が最適でなかった、あるいは改善策は良くても職員への周知、教育が不十分であること等が考えられます。継続フォローの会の目的はPDCAサイクルを回し、成果を継続させ、さらに発展させることにあります。多くの労力をかけてつくった仕組みを継続させ、磨いていきましょう。

2022年度 MQI継続フォローの会（2.13、2.20開催）

MQI推進委員会では、MQIの成果が継続できるように、フォローの会を開催し、活動をフォローしています。

	現在の状況及び今後の活動について	推進委員からのコメント
★検査科 『検査科 受付業務の効率化』	検査科電話問い合わせ番号を整理した事で、受付に集中する問い合わせを分散でき、業務負担の軽減が図れました。診察日前検査は業務の一部として機能しており、混雑解消の為に今後とも継続していきます。	活動を通じて、受付の業務負担を軽減できています。診察日前検査につきましては、引き続き外来の先生方にもご協力いただき、継続していければと思います。
★看護部 『身体抑制開始後の 評価を見直し、解除を 目指す』	改訂したテンプレートに沿って看護師抑制評価を記載できています。師長会や主任会で3階病棟の取組の効果として事例報告し、他病棟で取り入れられる内容を検討中です。取り組みを全病棟で継続できるよう、今後も他職種で情報共有を行い抑制解除を目指します。	本活動で抑制評価記録が充実したと、診療記録監査の場でも成果を感じています。病院機能評価では看護師だけでなく医師の記録も問われます。テンプレート使用にご協力下さい。
★事務部 『倉庫を整理して物品 収納を円滑にする』	昨年12月に定期的廃棄物回収を行い、院内にある不要物は少なくなってきている。倉庫内は感染対策品の供給が止まり、物品数も減ってきている。倉庫に何を置くかの仕組みづくりを今後はやっていきたい	今後は、倉庫の整理に取り組んでください。不明物品を増やさない倉庫づくりへの着手や、病院全体として活動を継続することが出来るかなど、活動メンバーについても検討してください。
★紙削減 有志チーム 『職員用の紙及び労 力の削減』	歯止めに掲げた業務に関しては継続して行っています。庶務課を始めとして業務を引き継いで頂いた部署に改めてお礼を申し上げます。今後の課題ですが現在院内がDX化に向けて稼働中です。それが終わ次第順次取り組んでいきます。	不必要な紙を使わない意識改革ができたことが一番の成果です。主体部署がないので、チームは一旦解散しますが、今後の発展も期待できます。皆様、引き続きご協力をお願いします。
★リハビリテーション科 『当院職員の健康づく り』	職員への情報発信は継続して実施できていますが安全衛生委員会への引継ぎがまだ完了していないので引き続き活動していきます。今後はより他職種で職員の健康について取り組む活動に移行できればと考えています。	本活動にて、職員に健康づくりという意識づけをできたことは、取り組みの第一歩としては良かったと思います。今後は安全衛生委員会に活動を引き継いでいますが、職員の意識が薄れないよう活動を継続していければと思います。

2019年度MQI 3年目継続フォローの会（2022.1.23、2.6開催）

3年目継続フォローの会開催について

MQI活動は、その年度のMQIチームが解散した後、活動の成果や活動で作成した業務手順が普段の業務の中に定着し、さらに発展していくことが理想です。3年目フォローの会は、活動報告書を作成した時の「歯止め・標準化」や「今後の課題」とした内容が、現在どうなっているかを再確認し、課題が解決できないままであれば、さらに検討する機会になります。新入職員の皆さまにも、ぜひ、以前の活動を知ってもらいたいと考えます。医療を取り巻く環境の変化に合わせてPDCAを回し、さらに医療の質を向上させるべく、活動を発展させましょう。

	発表時の「歯止め・今後の課題」のその後について	推進委員からのコメント
◆看護部 『安全に与薬するための仕組みを再構築する』	インシデント発生時の配薬手順の不順守の現状がある。経口与薬の中でも、食前/起床時/時間指定薬マニュアルの周知徹底のために、与薬手順確認ラウンドの実施を検討中です。自己管理/退院処方に関してもインシデントの頻度は変わらないため、看護部業務委員会での見直しを実施予定。	活動後もインシデントが発生していることから、再発防止のために、どう活動するか再検討が必要な時期です。この活動を見直し、マニュアルの見直し、手順の徹底に向けて行動しましょう。
◆薬剤科 『多職種で関わる高血糖緊急症対応の標準化』	高血糖緊急症治療標準化を目的に作成した統合セットを実際に使用し、現在問題なく使用できている。統合セットの内容の評価については、症例が少なく評価できていない。高血糖緊急症患者への看護計画の観察項目では実際に観察項目セットを使用できている、観察項目セットの周知もされていた。今後は統合セット内容と院内の糖尿病基本原則の見直しをしていきたいと考えている。	今後の課題であった、糖尿病基本原則の見直しの予定を立てないと、この先もやらずに終わってしまう可能性が高いと考えます。予定を立て、改訂した基本原則をCoMedixの文書管理に登録してください。
◆内視鏡 『練馬区胃がん健診内視鏡検査の受け入れ態勢を整える』	本活動にて練馬区胃がん検診内視鏡検査は、決められた方法で正しく実施し、結果説明の案内も滞りなく行っています。受診者の受け入れ数も、当初は一日2名でしたが、現在4名まで増やしました。今後も積極的に受診者を受け入れ、胃がんの早期発見・早期治療に貢献していきたいと思えます。	本活動テーマに取り組んだことで練馬区胃がん検診希望者に対し、安心安全な検診を提供することが実現できたと考えます。胃がん検診対象者は抗血小板薬を服用中の方、心臓病の方は実施できないなど細かな決まりが多く、ごく一部の方は来院後に検診対象外であることが判明します。検診対象外となった患者へのフォロー等も今後検討が必要です。
◆事務部 『機器・備品管理の仕組みを見直す』	活動後しばらくはマニュアル通りに行っていたが、職員の入替えや、各部署への未提出の際の呼びかけが充分でなかったため、一部管理ができていない状況である。2022年のMQI活動で『破棄の仕組み・流れ』を構築したので、マニュアルの掲載方法の検討と実態にあったマニュアル改訂を検討しており、今後は取得から破棄までの流れを一元管理できるようにしていく。	マニュアル改定の他にCoMedix掲載や、拡大課長会議、4月入職オリエンテーションなどで職員に案内ができると思います。
◆リハビリテーション科 『心大血管疾患患者のリハビリテーションを見直し、多職種の関わり方を標準化する』	本活動で運用した方法をさらに2021年のMQI活動で見直し、現在に至っており、継続して運用できています。循環器回診では病棟責任者や薬剤師も同行してくれるようになり、さらに他職種で情報共有ができるようになっていきました。心不全パスの使用率も上がっており、円滑な業務に繋げることができています。	本活動にて心不全パスを作成したことで、どの療士でも運動負荷量等に迷うことなくリハビリを実施できるようになったと思います。また、他職種で情報共有が以前よりできるようになっているため継続してパスを使用していけるといいと思います。
◆放射線科 『造影CT検査前の安全な工程の確立』	MQI活動で構築、運用を開始したCT造影剤使用前確認システムは今現在でも不具合なく運用できています。また、一昨年の放射線科MQI活動にて造影基準をクリアチンからeGFRに変更した際にCT造影剤使用前確認システムの内容を修正・変更し、問題なく運用しています。	この活動で前日のチェック作業の負担が軽減でき、3年間で日々の業務にもしっかりと落とし込めています。一昨年のシステム変更にも問題なく対応できたため、今後も変更が必要となときに迅速に対応していきたい。